

中頓別町子どもの読書活動推進計画

〔第三次計画〕

# 中頓別町子ども読書プラン

令和 3 年 3 月

中頓別町教育委員会

## 目 次

### 第1章 「中頓別町子どもの読書活動推進計画（第三次計画）」の基本的な考え方

1	子どもの読書活動の意義と計画の策定における基本的な考え	・ ・ ・ ・ ・ 1
2	計画策定の趣旨	・ ・ ・ ・ ・ 1
3	基本理念	・ ・ ・ ・ ・ 2
4	計画の対象	・ ・ ・ ・ ・ 2
5	対象となる各期の特徴	・ ・ ・ ・ ・ 2
6	計画の全体的な構想	・ ・ ・ ・ ・ 4
7	計画の期間	・ ・ ・ ・ ・ 4
8	第二次計画における成果と課題	・ ・ ・ ・ ・ 4

### 第2章 子どもの読書活動推進のための基本目標・基本方針と具体的な取り組み

1	家庭・地域・学校を通じた地域全体での子ども読書活動の推進	・ ・ ・ ・ ・ 7
2	子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備	・ ・ ・ ・ ・ 10
3	読書から学び、生きる力を育む生涯読書の推進	・ ・ ・ ・ ・ 13

### 資料

1	子どもの読書活動推進に関する法律	・ ・ ・ ・ ・ 16
2	文字・活字文化振興法	・ ・ ・ ・ ・ 18
3	図書館法	・ ・ ・ ・ ・ 21
4	学校図書館法	・ ・ ・ ・ ・ 26

## 第1章 「中頓別町子どもの読書活動推進計画〔第三次計画〕」の基本的な考え方

### 1 子どもの読書活動の意義と計画の策定における基本的な考え

読書は、私たちの豊かな言葉と感性、創造力、表現力などを高め、知識という様々な「生きる力」を与えてくれます。この読書によって、コミュニケーション力を養い、人と人とのつながりを生み出し、人として大きく成長するきっかけとなっています。

しかし、近年の各種調査における子どもの読書活動についての全国的な現状は、残念ながら読書離れが進んでいる傾向にあり、特に学年が進むにつれてその傾向は高くなっていきます。これらの要因は、高度情報化、国際化などを背景に、インターネットやスマートフォンなどの情報通信機器の発達と普及により、物質的な豊かさと利便性の良い環境を提供してくれる一方、生活スタイルに極めて大きな影響を与え、「活字離れ」「読書離れ」といった問題が挙げられます。

これらの変化は急速に加速し、子どもの読解力やコミュニケーション力の低下を招き、今日の社会において重大な社会問題へと発展し、優先的に解決すべき課題として広く認識されつつあります。だからこそ、中頓別町ではこの問題に迅速かつ柔軟に対応することに加え、物質的な豊かさだけではなく内面的な心の豊かさを取り戻すべく、読書というツールを活用し、生涯にわたって継続されるような読書活動の推進にあたっていきたいと考えています。

こうした子どもの読書活動の推進の動向と、子どもの読書活動の現状や課題を受けて、従来の各計画による子どもの読書活動推進の施策から、単独計画による子どもの読書活動の取組の充実を図ることを目的に中頓別町の子どもの読書活動推進計画を策定していきます。

### 2 計画策定の趣旨

「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、中頓別町教育委員会では平成22年3月に「中頓別町子どもの読書推進計画」（以下、「第一次計画」）とします。）、平成27年6月に「中頓別町子どもの読書推進計画〔第二次計画〕」（以下、「第二次計画」）とします。）を策定してきました。

これらの計画は、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本計画〔第三次計画〕」及び北海道の「北海道子どもの読書活動推進計画〔第三次計画〕」を基本とするとともに、中頓別町のすべての子どもがあらゆる機会と場所において、自主的に読書活動を行えるよう環境づく

りを進めてきました。

これまでの「第一次計画」「第二次計画」を引き継ぐとともに、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本計画〔第四次計画〕」及び北海道の「北海道子どもの読書活動推進計画〔第四次計画〕」に基づき、施策の総合的・計画的な推進にあたり、「中頓別町子どもの読書活動推進計画〔第三次計画〕」としていきます。

### 3 基本理念

中頓別町の子どもがあらゆる機会や場面において、人と人とがつながる読書活動を行うことができるよう、家庭・地域・学校等の連携を進め、読書から生きる力を学び・育むことができる場の環境整備を図ります。

読書は、子どもにとって遊びと同じように時間が経つのも忘れるくらい楽しく、未知な不思議な世界にふれて夢をふくらませ、知る喜びを味わい、知らず知らずの間に、自分を高めてくれるものです。

中頓別町の子どもたちが、「いつでも、どこでも、だれもが」を合言葉に、読書に親しみ、読書活動を通じて人と人のつながりへと発展していくことを目指し、家庭・地域・学校等が連携し、地域のつながりが生まれる読書活動の整備を進めます。

### 4 計画の対象

この計画の対象は、0歳から18歳を対象とします。

### 5 対象となる各期の特徴

子どもの読書活動は、発達段階に応じて取り組むことが重要であることから、0歳から18歳までの対象を大きく4つの期間（乳幼児期、小学生期、中学生期、高校生期）に分けて、各期の特徴に応じて推進します。

- ・乳幼児期（0歳～6歳）      ー 小学校入学前の子どもなど
- ・小学生期（6歳～12歳）      ー 小学校児童など

- ・中学生期（１２歳～１５歳）　－　中学校生徒など
- ・高校生期（１５歳～１８歳）　－　高等学校生徒など

#### （１）乳幼児期（０歳～６歳）　「本に出会う」

３歳までには、徐々に自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになるとともに、文字の存在を意識し、絵本に興味を示すようになります。この時期は、子どもが自己を形成する上で、絵本や物語などに親しみ、保護者等の周りにいる大人からの語りかけや言葉のやりとりなど、子どもに気持ちを通わせることが大切となります。

４歳以上になると、日常生活に必要な言葉が分かるようになり、仮名文字も全部読めるようになってきます。この時期は、絵本や物語を読んでもうらことなどにより、その内容を自分の経験と結び付け、想像を巡らせ、新しいものをつくり出す力が養われるなど、読書の楽しみを十分に味わうことが大切となります。

#### （２）小学生期（６歳～１２歳）　「本に親しむ」

低学年は、本を読む習慣がつき始める時期であり、文字で表された場面や情景をイメージすることができるようになってきます。この時期は、読み聞かせなどにより、いろいろな本に親しみ、読書を楽しむ時間が大切になります。

中学年は、多くの本を読むことができるようになるとともに、本を終わりまで読み通す力がついてきます。この時期は、幅広いジャンルの本に親しみ、読書を通して知識や情報を得られるようにすることが大切になります。

高学年は、目的に合った本を読むようになり、内容を評価することができるようになってきます。この時期は、日常的に読書に親しみ、読書を通して自分の考えを広げるようにすることが大切になります。

#### （３）中学生期（１２歳～１５歳）　「本から学ぶ」

中学生期は、多くの本の中から自分に合った本を選択することができるようになり、共感や感動する本に出会うと何度も読むようになります。この時期は、本や文章には様々な立場や考え方が書かれていることを知るとともに、読書が自分の生き方や社会のかかわり方を支えてくれることを実感することが大切になります。

#### (4) 高校生期（15歳～18歳） 「本と生きる」

高校生期は、視野が広がり、興味・関心が多岐にわたることから、この時期に多くの本を読むことは、人間としての在り方や生き方を考えることにつながり、自らの生き方について、主体的な進路の選択と決定に大きな影響を与えるとともに、生涯を通じて読書の楽しみ、学び続ける上での大きな力になります。

### 6 計画の全体的な構想

計画の全体構想は、基本理念に基づき、家庭・地域・学校等が連携し、地域のみならず社会全体で読書活動の推進を図るとともに、町立の図書室や学校図書室等における読書環境の整備し、さらには、本から学び、生きる力を育む生涯読書の推進に努めることを示しています。

なお、社会全体での推進にあたっては、0歳から18歳までの対象を大きく4つの期間（乳幼児期、小学生期、中学生期、高校生期）の各期の特徴を踏まえ、子どもの発達段階に応じて、読書活動を継続的に推進することにより、読書習慣を定着させることが望まれます。このようなことから、家庭・地域・学校等がそれぞれの取り組みを理解し、相互連携を図ることとで、より良い子どもの読書活動の推進を示しています。

### 7 計画の期間

令和2年度から令和6年度までの5年間とします。

なお、この計画の進捗状況等については、中頓別町子ども読書活動推進会議に報告し、その意見等を踏まえながら、計画の効果的な推進に努めます。

### 8 第二次計画における成果と課題

第二次計画における主な成果と課題は、次のとおりです。

#### (1) 成果

- ・関係部署と連携して、6か月児、1歳児、1歳6か月児、3歳児の全員に読み聞かせボランティアサークルによる絵本の読み聞かせを行うとともに、6か月児には絵本2冊の贈呈を行うなど長期の取組となっている。
- ・読み聞かせボランティアサークルによる絵本の読み聞かせ「おはなし会」を定期的に開催する取組ができ、子どもや親子での参加促進ができている。

- ・読み聞かせボランティアサークルが、認定こども園、小学校に定期的に訪問し、本の読み聞かせを行っている。
- ・読み聞かせボランティアサークルが、小学校、中学校の図書室の環境整備や学級文庫の選書を行い、子どもの興味関心を高めるきっかけを与えることができています。
- ・読み聞かせボランティアサークルが、町文化祭事業の一つの取組として「としょまつまつり」を開催し、本に親しむ機会を設けることができています。
- ・認定こども園、小学校、中学校で読書に対する理解も高く、子どもの読書習慣を促すことができています。

## （２）課題

- ・ゲームや動画、スマホなどの影響や、共働き世帯も多くなり、家庭での読み聞かせ体験が少なくなっている。
- ・おはなし会等に参加してもらう子どもが増えるよう周知の方法を改める必要がある。
- ・中心地以外に居住している子どもが、本を気軽に借りに来られる環境を整えることができていない。
- ・町立図書室を利用する子どもが固定化されており、全体的に読書習慣の定着まで結びついていない。
- ・情報通信機器の普及による時代の変化に、地域全体で対応ができていなく、読書離れに対応が遅れている。
- ・子どもが読書をしたいくなる仕組み等がしっかりと整備されておらず、生涯読書に結び付けることができていない。
- ・定期的なアンケートの取組実施を行うことができていない。

## 第2章 子どもの読書活動推進のための基本目標・基本方針と具体的な取り組み

「第三次計画」においては、計画の全体構想を踏まえて、3つの「基本目標」を設定し、それぞれの推進方策とそれに対応した目標指数を示すこととします。

### ■第二次計画

#### 〈基本目標1〉

家庭・地域・学校を通じた社会全体での  
子どもの読書活動の推進

##### 【推進方策1-1】

家庭における読書活動の推進

##### 【推進方策1-2】

地域における読書活動の推進

##### 【推進方策1-3】

学校等における読書活動の推進

#### 〈基本目標2〉

子どもの読書活動を推進するための読書  
環境の整備

##### 【推進方策2-1】

中頓別町における取組

##### 【推進方策2-2】

町立図書室における取組

##### 【推進方策2-3】

学校図書室における取組

#### 〈基本目標3〉

子どもの読書活動の普及・啓発

##### 【推進方策3-1】

町立図書室等における普及・啓発

##### 【推進方策3-2】

学校等における普及・啓発

### ■第三次計画

#### 〈基本目標1〉

家庭・地域・学校を通じた社会全体での  
子どもの読書活動の推進

##### 【推進方策1-1】

家庭における読書活動の推進

##### 【推進方策1-2】

地域における読書活動の推進

##### 【推進方策1-3】

学校等における読書活動の推進

#### 〈基本目標2〉

子どもの読書活動を推進するための読書  
環境の整備

##### 【推進方策2-1】

中頓別町における取組

##### 【推進方策2-2】

町立図書室における取組

##### 【推進方策2-3】

学校図書館等における取組

#### 〈基本目標3〉

読書から学び、生きる力を育む生涯読書  
の推進

##### 【推進方策3-1】

生涯読書習慣の仕組みにおける取組

##### 【推進方策3-2】

電子媒体の活用における取組



## 1 〈基本目標1〉 家庭・地域・学校を通じた地域全体での子ども読書活動の推進

子どもの読書週間を定着させ、主的な読書活動を推進するためには、家庭・地域・学校等、社会全体で取組を進める必要があります。

そのため、家庭・地域・学校等における読書活動の推進に向けて、それぞれの機関が役割を明確にすることとともに、関係機関や団体等と連携し相互に協力し合い、様々な取組を進めていくことが重要です。

### 【推進方策1 - 1】 家庭における読書活動の推進

#### 〈推進の方向性〉

子どもの読書習慣は日常の生活を通して形成されるものであり、読書が生活の中に位置付けられ、継続して行われるよう、保護者が家庭での読書活動の習慣化に向けて、積極的に取り組む必要があります。

そのために、家庭ではゲームや動画に偏ることなく、家族で読書をするのできる環境が身近にあることが望めます。絵本や物語の読み聞かせを行ったり、家庭で図書室に出向いたりすることを通して、家族でのコミュニケーションを図る「家読（うちどく）」※<sup>1</sup>に取り組むことにより、子どもが読書に親しむきっかけをつくるとともに、読書に対する興味関心を持たせられるよう、保護者から子どもに働きかけることが望めます。

#### 〈具体的な取組〉 ※◎は重点的な取組

◎子どもの読書の習慣化に向けた取組として、家庭読書の日の毎月23日を「なかとん家読（うちどく）の日」に設定すること

○家族で図書室や書店に出向き、読み聞かせ会を楽しんだり、本を選んだりすること

○家族が集まる部屋に本棚を置くなど、読書に親しむ雰囲気をつくること

◎読み聞かせなどの「読書に親しむ」活動の工夫をすること（読書ノート※<sup>2</sup>等の活用）

#### ※<sup>1</sup>家読（うちどく）

「家読」とは、家庭読書の略語で、「家族でふれあう読書」を意味します。家族が本を通じてふれあい、同じ時間を楽しく過ごしてもらおうという取組

#### ※<sup>2</sup>読書ノート

家読のやり方のひとつ。家族で読んだ本のタイトル・作者・読み始めた日・感想などを書き込み、一緒に読書する気持ちを共有する取組。

## 【推進方策１－２】地域における読書活動の推進

### 〈推進の方向性〉

乳幼児期の施策においては「本に出会う」最初のきっかけづくりとして、ブックスタート事業<sup>※3</sup>があります。これは乳幼児期から読書に親しむ習慣を身につける上で効果的な事業であり、より充実していく必要性があります。

また、子育てに関する学習や相談の場となっている子育てサークルの活動や PTA 研修会等においては、子どもの読書活動の重要性をより広く地域住民や保護者が認識するとともに、本を身近に手に取ることができる工夫が求められます。

町立図書室においては、地域の子どもが集う場所に本棚を準備や推奨図書の紹介など、他の関係機関等との連携・協力しながら、子どもにとって身近な読書環境への整備が求められます。

### 〈具体的な取組〉※◎は重点的な取組

#### ◎推奨図書の選定

#### ◎町立図書室と各学校が連携した「本に親しむ」環境の充実

#### ◎読み聞かせボランティアサークルの育成と活動の場の整備

#### ◎読み聞かせボランティアサークルの訪問活動<sup>※4</sup>と読書活動の推進

#### ○町立図書室の「なかとん家読の日」を意識した推奨図書の企画展の実施

#### ○ブックスタート事業の充実

### ※3 ブックスタート事業

乳幼児検診の際に、読み聞かせボランティアサークルによる絵本の読み聞かせや読書の大切さや方法を伝え、読書活動の推進を目的とした事業。

### ※4 訪問活動

読み聞かせボランティアサークルが認定こども園や小・中学校を訪問し、図書室の本の選書や整備、本の読み聞かせを行う事業。

### 【推進方策１－３】学校等における読書活動の推進

#### 〈推進の方向性〉

乳幼児期は、絵本の読み聞かせなどをおして新たな世界に興味や関心を広げる時期であると言われており、様々なジャンルの本と出会うことが大切です。

また、小学生期・中学生期・高校生期においては、読書は自我の確立や進路選択など大きな影響を与えるものです。そのため、学校等においては、子どもの発達段階を踏まえて、読書の楽しさを計画的かつ継続的に読書活動を推進していく必要があります。子どもの望ましい読書習慣の形成は、学校図書室を先進的に活用しながら、授業や様々な教育活動を通して子どもの情報活用能力の育成を図ることが望まれます。

#### 〈具体的な取組〉 ※◎は重点的な取組

◎読み聞かせなどによる本に親しむ活動

○保護者やボランティア、町立図書室との連携による読書活動

◎「朝の読書」など全校一斉読書活動や校内読書週間等の設定

○教員や保育士によるお薦めの本の紹介や多様な本と出会う機会の設定

○学級文庫の設置

○図書委員会や図書局等による児童・生徒の自主的な読書活動

○読書感想文コンクールや読書感想発表会等の実施

○総合的な学習の時間における町立図書室での読書活動の実施

## 2 〈基本目標2〉子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備

子どもの読書活動を推進するためには、中頓別町のすべての子どもが、好きな本を手にとったり、必要な資料を調べたりすることができる、望ましい読書環境づくりを進める必要があります。

そのためには、子どもが読書の楽しさを知るきっかけをつくるとともに、読書活動の推進に向けた場所や機会を提供するなど、計画的に整備を進めることが重要です。

### 【推進方策2 - 1】中頓別町における取組

#### 〈推進の方向性〉

中頓別町では、子どもの読書活動推進計画を策定し、公表するとともに、家庭における子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの発達過程や段階を踏まえた読書環境を整備する必要があります。

そのため、読書活動の中心的な役割を果たす町立図書室の整備・充実を図るとともに、町内の学校や読み聞かせボランティアサークル等とともに相互に連携しながら、望ましい読書環境づくりを進めることが重要であるため、計画的に取組を推進することが望まれます。

#### 〈具体的な取組〉※◎は重点的な取組

- ◎関係機関等の連携による中頓別町子ども読書活動推進計画の策定、施策の実施、点検・評価及び改定
- 中頓別町子ども読書活動推進計画のホームページへの掲載等による積極的な周知
- 読み聞かせ等、町立図書室や各学校を活用した読書活動の推進
- 絵本コーナー等の子どもの利用スペースの確保
- 町立図書室職員及び学校図書館の担当職員等を対象とする研修機会の充実
- 専門職員である図書館司書や司書教諭<sup>※5</sup>の配置
- 蔵書管理システムの整備や充実

#### ※5 司書教諭

小・中学校及び高等学校等において、図書、視聴覚教育の資料、その他学校教育に必要な資料を収集、整理保存し、これを児童生徒や教育の利用に供するために設けられた学校図書館の専門的職に従事する者。

## 【推進方策2 - 2】町立図書室における取組

### 〈推進の方向性〉

中頓別町では、町立図書室において、子どもが学校外で自分の読みたい本を選び、読書を楽しむことができる場になることを目的に整備を進めています。

そのため、町立図書室が地域における中心的な役割を果たすとともに、地域住民の誰もが利用しやすい施設としての機能を果たすことが期待されます。

また、道立図書館や道立文学館、その他市町村図書館（室）においては、相互の連携を図るとともに、それぞれが市町村や学校等と連携し、読書活動を推進していく必要があります。

### 〈具体的な取組〉※◎は重点的な取組

◎読書に関するレファレンスサービス※<sup>6</sup>の充実

◎読書活動を推進するための具体的な事例が記載された図書や雑誌、資料の整備

○児童文学書の情報の収集

○北海道ゆかりの文学者の作品、文学資料などの調査や研究

◎図書の一括貸出※<sup>7</sup>による読書活動の推進

○読み聞かせなどの読書活動の推進

○読みたい図書の希望調査用紙の設置

○障がいのある子どもに対応した図書の整備・充実

○町立図書室の利用者によるお薦め図書の紹介コーナーの設置

#### ※<sup>6</sup>レファレンスサービス

図書館などで調べものの援助をする業務のこと。調査のための参考になる資料を整備・作成することを含む

#### ※<sup>7</sup>図書の一括貸出

たくさん本を個人ではなく団体に対して、長期間大量の図書等を一括貸出しするサービスのこと。道立図書館では、市町村へ大量の図書を貸し出ししており、その中には小学校の朝の読書や調べ学習等で活用できる図書セット、「朝読・家読ブックス」「理科読セット」「調べ学習支援セット」等がある。

## 【推進方策2 - 3】学校図書館等における取組

### 〈推進の方向性〉

認定こども園は、幼児が様々な本と出会うことのできる読書環境を整備することが望まれます。

学校図書館は、児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能とともに、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有します。

そのため、授業等で学校図書館の利活用を図り、読書活動のより一層の充実が必要となります。さらには、休み時間や放課後に好きな本を選び自分のペースで読書を進め、興味があることをじっくり調べられるなど、子どもたちにとって生き生きとした学校生活を送ることができるよう、「心の居場所」としての機能も期待されることから、司書教諭や学校図書館担当職員を中心に、計画的かつ継続的な整備充実に努める必要があります。

### 〈具体的な取組〉 ※◎は重点的な取組

◎保護者や読み聞かせボランティアサークルとの連携による絵本コーナー等の整備

◎町立図書室との連携

◎保護者や読み聞かせボランティアサークルとの連携による図書の選書作業や学校図書館の装飾等の工夫

○学級文庫や、多目的スペースへの読書コーナーの設置など、児童生徒が気軽に利用することのできる校内読書環境の整備の工夫

○推薦図書コーナーの設置

○障がいのある児童生徒の状況に応じた機器及び資料の整備

◎基準に基づく組織的・計画的な学校図書館資料の選定・廃棄・更新

### 3 〈基本目標3〉読書から学び、生きる力を育む生涯読書の推進

中頓別町では、乳幼児期の「本に出会う」から始まり、高校生期を過ぎても継続して行われる読書活動を生涯読書の実現に向けて、成長や発達段階に応じた各年齢期に対応した読書活動の推進を図ります。

すべての町民に対して、「いつでも、どこでも、だれもが」を合言葉に、自主的な読書や学習が行える場の提供、読書に親しむ機会の拡充と環境の充実を目指すとともに、人と人とのつながりを意識した読書活動の取組を進めます。

そのためには、現代の流れに意識した読書活動の推進が必要不可欠となり、電子媒体・電子書籍を取り入れた活動を意識して推進します。

#### 【推進方策3 - 1】生涯読書習慣の仕組みにおける取組

##### 〈推進の方向性〉

中頓別町では、乳幼児期から高校生期を過ぎても継続して行われる読書活動を生涯読書として位置付け、生涯にわたって（いつでも）本を手にとれる生活と自主的に行われる読書活動を支援するため、町立図書室の利用を含めた様々な場所（どこでも）や、どなたでも（だれもが）利用のできる町立図書室利用サービスを目指し、各種事業を継続していきます。

そのため、本が身近にある環境を整備することで、読書に親しむ時間が増え、読書を通じて、家族や友人などとの交流も増えることから、生涯における読書の習慣化に向けた取組を推進します。

##### 〈具体的な取組〉※◎は重点的な取組

- 町立図書室内の新着図書や推薦図書の普及
- ◎子どもの読書活動に関する情報の提供
- 絵本や図書の読み聞かせの実施
- 関心の高いテーマの口座や学習会の開催
- 展示（発表）の場や機会の提供
- ◎自主的な学習活動への支援

## 【推進方策３－２】電子媒体の活用における取組

### 〈推進の方向性〉

全道・全国的に「本離れ・読書離れ」が進み、図書館の利用頻度が低下する一方、時代の変化に伴い、パソコンやスマートフォンなどの普及により、電子媒体※<sup>8</sup>を活用した読書的手段として、電子書籍※<sup>9</sup>が主流となってきています。とくに若い世代を中心に、持ち運びが便利かつ大量の情報量を保存できる電子媒体を活用し、「本」そのものの購入が減っています。

そのため、時代の変化に臨機応変に対応しながら、中頓別町でも電子書籍の整備の取組が必要となります。さらには、これらを活用した SNS※<sup>10</sup>などで子どもの読書活動を幅広く周知するなど、「いつでも、どこでも、だれもが」が情報を収集できる環境整備を推進します。

### 〈具体的な取組〉 ※◎は重点的な取組

- ◎電子書籍を含む電子資料の整備と利用促進
- ◎電子媒体を活用した各種事業の積極的な周知
- インターネットを活用した予約貸出の利用整備
- 子どもから電子媒体を通じて読書報告の推進
- SNS を活用した読書事業の周知

#### ※<sup>8</sup> 電子媒体

電子的な記録方法を用いたメディア。光ディスク、デジタル放送、インターネットなど。身近なものであれば、パソコンやスマートフォン、タブレット端末を指す。

#### ※<sup>9</sup> 電子書籍

書籍をデジタルデータ化して、電子媒体に記録したものの総称。CD-ROM、メモリーカード、ネットワークで配信し、情報端末（パソコンやスマートフォン等）で閲覧する読み物の総称。

#### ※<sup>10</sup> SNS

ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのこと。利用者間のコミュニケーションを可能し、近年では会社や組織の広報として利用されている。



# 資料

# 1 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成十三年十二月十二日法律第百五十四号）

## （目的）

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

## （基本理念）

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉 を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

## （国の責務）

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の 推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

## （地方公共団体の責務）

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

## （事業者の努力）

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

## （保護者の役割）

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

## （関係機関等との連携強化）

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

## （子ども読書活動推進基本計画）

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」

という。)を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画(都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画)を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

## 2 文字・活字文化振興法（平成十七年法律第九十一号）

### （目的）

第一条 この法律は、文字・活字文化が、人類が長い歴史の中で蓄積してきた知識及び知恵の継承及び向上、豊かな人間性の涵養並びに健全な民主主義の発達に欠くことのできないものであることにかんがみ、文字・活字文化の振興に関する基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、文字・活字文化の振興に関する必要な事項を定めることにより、我が国における文字・活字文化の振興に関する施策の総合的な推進を図り、もって知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現に寄与することを目的とする。

### （定義）

第二条 この法律において「文字・活字文化」とは、活字その他の文字を用いて表現されたもの（以下この条において「文章」という。）を読み、及び書くことを中心として行われる精神的な活動、出版活動その他の文章を人に提供するための活動並びに出版物その他のこれらの活動の文化的所産をいう。

### （基本理念）

第三条 文字・活字文化の振興に関する施策の推進は、すべての国民が、その自主性を尊重されつつ、生涯にわたり、地域、学校、家庭その他の様々な場において、居住する地域、身体的な条件その他の要因にかかわらず、等しく豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できる環境を整備することを旨として、行われなければならない。

2 文字・活字文化の振興に当たっては、国語が日本文化の基盤であることに十分配慮されなければならない。

3 学校教育においては、すべての国民が文字・活字文化の恵沢を享受することができるようにするため、その教育の課程の全体を通じて、読む力及び書く力並びにこれらの力を基礎とする言語に関する能力（以下「言語力」という。）の涵養に十分配慮されなければならない。

### （国の責務）

第四条 国は、前条の基本理念（次条において「基本理念」という。）にのっとり、文字・活字文化の振興に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

### （地方公共団体の責務）

第五条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、文字・活字文化の振興に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（関係機関等との連携強化）

第六条 国及び地方公共団体は、文字・活字文化の振興に関する施策が円滑に実施されるよう、図書館、教育機関その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（地域における文字・活字文化の振興）

第七条 市町村は、図書館奉仕に対する住民の需要に適切に対応できるようにするため、必要な数の公立図書館を設置し、及び適切に配置するよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、公立図書館が住民に対して適切な図書館奉仕を提供することができるよう、司書の充実等の人的体制の整備、図書館資料の充実、情報化の推進等の物的条件の整備その他の公立図書館の運営の改善及び向上のために必要な施策を講ずるものとする。

3 国及び地方公共団体は、大学その他の教育機関が行う図書館の一般公衆への開放、文字・活字文化に係る公開講座の開設その他の地域における文字・活字文化の振興に貢献する活動を促進するため、必要な施策を講ずるよう努めるものとする。

4 前三項に定めるもののほか、国及び地方公共団体は、地域における文字・活字文化の振興を図るため、文字・活字文化の振興に資する活動を行う民間団体の支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

（学校教育における言語力の涵養）

第八条 国及び地方公共団体は、学校教育において言語力の涵養が十分に図られるよう、効果的な手法の普及その他の教育方法の改善のために必要な施策を講ずるとともに、教育職員の養成及び研修の内容の充実その他のその資質の向上のために必要な施策を講ずるものとする。

2 国及び地方公共団体は、学校教育における言語力の涵養に資する環境の整備充実を図るため、司書教諭及び学校図書館に関する業務を担当するその他の職員の充実等の人的体制の整備、学校図書館の図書館資料の充実及び情報化の推進等の物的条件の整備等に関し必要な施策を講ずるものとする。

（文字・活字文化の国際交流）

第九条 国は、できる限り多様な国の文字・活字文化が国民に提供されるようにするとともに我が国の文字・活字文化の海外への発信を促進するため、我が国においてその文化が広く知られていない外国の出版物の日本語への翻訳の支援、日本語の出版物の外国語への翻訳の支援その他の文字・活字文化の国際交流を促進するために必要な施策を講ずるものと

する。

（学術的出版物の普及）

第十条 国は、学術的出版物の普及が一般に困難であることにかんがみ、学術研究の成果についての出版の支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

（文字・活字文化の日）

第十一条 国民の間に広く文字・活字文化についての関心と理解を深めるようにするため、文字・活字文化の日を設ける。

2 文字・活字文化の日は、十月二十七日とする。

3 国及び地方公共団体は、文字・活字文化の日には、その趣旨にふさわしい行事が実施されるよう努めるものとする。

（財政上の措置等）

第十二条 国及び地方公共団体は、文字・活字文化の振興に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

### 3 図書館法（昭和二十五年法律第百十八号）

#### 目次

#### 第一章 総則（第一条—第九条）

#### 第二章 公立図書館（第十条—第二十三条）

#### 第三章 私立図書館（第二十四条—第二十九条）

#### 附則

#### 第一章 総則

##### （この法律の目的）

第一条 この法律は、社会教育法（昭和二十四年法律第二百七号）の精神に基き、図書館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育と文化の発展に寄与することを目的とする。

##### （定義）

第二条 この法律において「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設で、地方公共団体、日本赤十字社又は一般社団法人若しくは一般財団法人が設置するもの（学校に附属する図書館又は図書室を除く。）をいう。

2 前項の図書館のうち、地方公共団体の設置する図書館を公立図書館といい、日本赤十字社又は一般社団法人若しくは一般財団法人の設置する図書館を私立図書館という。

##### （図書館奉仕）

第三条 図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、更に学校教育を援助し、及び家庭教育の向上に資することとなるように留意し、おおむね次に掲げる事項の実施に努めなければならない。

一 郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード及びフィルム収集にも十分留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によつては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「図書館資料」という。）を収集し、一般公衆の利用に供すること。

二 図書館資料の分類排列を適切にし、及びその目録を整備すること。

三 図書館の職員が図書館資料について十分な知識を持ち、その利用のための相談に応ずるようにすること。

四 他の図書館、国立国会図書館、地方公共団体の議会に附置する図書室及び学校に附属する図書館又は図書室と緊密に連絡し、協力し、図書館資料の相互貸借を行うこと。

- 五 分館、閲覧所、配本所等を設置し、及び自動車文庫、貸出文庫の巡回を行うこと。
- 六 読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を主催し、及びこれらの開催を奨励すること。
- 七 時事に関する情報及び参考資料を紹介し、及び提供すること。
- 八 社会教育における学習の機会を利用して行つた学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
- 九 学校、博物館、公民館、研究所等と緊密に連絡し、協力すること。

（司書及び司書補）

第四条 図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する。

- 2 司書は、図書館の専門的事務に従事する。
- 3 司書補は、司書の職務を助ける。

（司書及び司書補の資格）

第五条 次の各号のいずれかに該当する者は、司書となる資格を有する。

- 一 大学を卒業した者（専門職大学の前期課程を修了した者を含む。次号において同じ。）で大学において文部科学省令で定める図書館に関する科目を履修したもの
- 二 大学又は高等専門学校を卒業した者で次条の規定による司書の講習を修了したもの
- 三 次に掲げる職にあつた期間が通算して三年以上になる者で次条の規定による司書の講習を修了したもの

イ 司書補の職

- ロ 国立国会図書館又は大学若しくは高等専門学校の附属図書館における職で司書補の職に相当するもの
- ハ ロに掲げるもののほか、官公署、学校又は社会教育施設における職で社会教育主事、学芸員その他の司書補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するもの

2 次の各号のいずれかに該当する者は、司書補となる資格を有する。

- 一 司書の資格を有する者
- 二 学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第九十条第一項の規定により大学に入学することのできる者で次条の規定による司書補の講習を修了したもの

（司書及び司書補の講習）

第六条 司書及び司書補の講習は、大学が、文部科学大臣の委嘱を受けて行う。

- 2 司書及び司書補の講習に関し、履修すべき科目、単位その他必要な事項は、文部科学省令で定める。ただし、その履修すべき単位数は、十五単位を下ることができない。



（司書及び司書補の研修）

第七条 文部科学大臣及び都道府県の教育委員会は、司書及び司書補に対し、その資質の向上のために必要な研修を行うよう努めるものとする。

（設置及び運営上望ましい基準）

第七条の二 文部科学大臣は、図書館の健全な発達を図るために、図書館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを公表するものとする。

（運営の状況に関する評価等）

第七条の三 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（運営の状況に関する情報の提供）

第七条の四 図書館は、当該図書館の図書館奉仕に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該図書館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

（協力の依頼）

第八条 都道府県の教育委員会は、当該都道府県内の図書館奉仕を促進するために、市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会（地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和三十一年法律第百六十二号）第二十三条第一項の条例の定めるところによりその長が図書館の設置、管理及び廃止に関する事務を管理し、及び執行することとされた地方公共団体（第十三条第一項において「特定地方公共団体」という。）である市町村にあつては、その長又は教育委員会）に対し、総合目録の作製、貸出文庫の巡回、図書館資料の相互貸借等に関して協力を求めることができる。

（公の出版物の収集）

第九条 政府は、都道府県の設置する図書館に対し、官報その他一般公衆に対する広報の用に供せられる独立行政法人国立印刷局の刊行物を二部提供するものとする。

2 国及び地方公共団体の機関は、公立図書館の求めに応じ、これに対して、それぞれの発行する刊行物その他の資料を無償で提供することができる。

## 第二章 公立図書館

（設置）

第十条 公立図書館の設置に関する事項は、当該図書館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

第十一条及び第十二条 削除

（職員）

第十三条 公立図書館に館長並びに当該図書館を設置する地方公共団体の教育委員会（特定地方公共団体の長がその設置、管理及び廃止に関する事務を管理し、及び執行することとされた図書館（第十五条において「特定図書館」という。）にあつては、当該特定地方公共団体の長）が必要と認める専門的職員、事務職員及び技術職員を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、図書館奉仕の機能の達成に努めなければならない。

（図書館協議会）

第十四条 公立図書館に図書館協議会を置くことができる。

2 図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする。

第十五条 図書館協議会の委員は、当該図書館を設置する地方公共団体の教育委員会（特定図書館に置く図書館協議会の委員にあつては、当該地方公共団体の長）が任命する。

第十六条 図書館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他図書館協議会に関し必要な事項については、当該図書館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

（入館料等）

第十七条 公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない。

第十八条及び第十九条 削除

（図書館の補助）

第二十条 国は、図書館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、図書館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第二十一条及び第二十二条 削除

第二十三条 国は、第二十条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- 一 図書館がこの法律の規定に違反したとき。
- 二 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。

三 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

### 第三章 私立図書館

#### 第二十四条 削除

（都道府県の教育委員会との関係）

第二十五条 都道府県の教育委員会は、私立図書館に対し、指導資料の作製及び調査研究のために必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立図書館に対し、その求めに応じて、私立図書館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

（国及び地方公共団体との関係）

第二十六条 国及び地方公共団体は、私立図書館の事業に干渉を加え、又は図書館を設置する法人に対し、補助金を交付してはならない。

第二十七条 国及び地方公共団体は、私立図書館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき、援助を与えることができる。

（入館料等）

第二十八条 私立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対する対価を徴収することができる。

（図書館同種施設）

第二十九条 図書館と同種の施設は、何人もこれを設置することができる。

2 第二十五条第二項の規定は、前項の施設について準用する。

附 則

（略）

#### 4 学校図書館法（昭和二十八年法律第百八十五号）

##### （この法律の目的）

第一条 この法律は、学校図書館が、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であることにかんがみ、その健全な発達を図り、もつて学校教育を充実することを目的とする。

##### （定義）

第二条 この法律において「学校図書館」とは、小学校（義務教育学校の前期課程及び特別支援学校の小学部を含む。）、中学校（義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。）及び高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）（以下「学校」という。）において、図書、視覚聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、整理し、及び保存し、これを児童又は生徒及び教員の利用に供することによつて、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備をいう。

##### （設置義務）

第三条 学校には、学校図書館を設けなければならない。

##### （学校図書館の運営）

第四条 学校は、おおむね左の各号に掲げるような方法によつて、学校図書館を児童又は生徒及び教員の利用に供するものとする。

- 一 図書館資料を収集し、児童又は生徒及び教員の利用に供すること。
  - 二 図書館資料の分類排列を適切にし、及びその目録を整備すること。
  - 三 読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を行うこと。
  - 四 図書館資料の利用その他学校図書館の利用に関し、児童又は生徒に対し指導を行うこと。
  - 五 他の学校の学校図書館、図書館、博物館、公民館等と緊密に連絡し、及び協力すること。
- 2 学校図書館は、その目的を達成するのに支障のない限度において、一般公衆に利用させることができる。

##### （司書教諭）

第五条 学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない。

- 2 前項の司書教諭は、主幹教諭（養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。）、指導教諭又は教諭（以下この項において「主幹教諭等」という。）をもつて充てる。

この場合において、当該主幹教諭等は、司書教諭の講習を修了した者でなければならない。

3 前項に規定する司書教諭の講習は、大学その他の教育機関が文部科学大臣の委嘱を受けて行う。

4 前項に規定するものを除くほか、司書教諭の講習に関し、履修すべき科目及び単位その他必要な事項は、文部科学省令で定める。

（学校司書）

第六条 学校には、前条第一項の司書教諭のほか、学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員（次項において「学校司書」という。）を置くよう努めなければならない。

2 国及び地方公共団体は、学校司書の資質の向上を図るため、研修の実施その他の必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（設置者の任務）

第七条 学校の設置者は、この法律の目的が十分に達成されるようその設置する学校の学校図書館を整備し、及び充実を図ることに努めなければならない。

（国の任務）

第八条 国は、第六条第二項に規定するもののほか、学校図書館を整備し、及びその充実を図るため、次の各号に掲げる事項の実施に努めなければならない。

- 一 学校図書館の整備及び充実並びに司書教諭の養成に関する総合的計画を樹立すること。
- 二 学校図書館の設置及び運営に関し、専門的、技術的な指導及び勧告を与えること。
- 三 前二号に掲げるもののほか、学校図書館の整備及び充実のため必要と認められる措置を講ずること。

附 則

（略）